

編集後記を書いている6月にもいろいろなことがありました。政権交代してまだ、1年も経たないのに、総理大臣がまた代わってしまいました。沖縄の基地の状況は、当分変わりそうにありませんが。今年度より医師会報の編集に新しく参加させてもらっています。他の広報委員の先生方の熱意には圧倒されます。今までは送られてくる医師会報を何気なく眺めていた？だけであったのですが、これからは、原稿を書いてくれた先生方にも感謝しつつ、講評まで考えながら読んでいこうと思っております。

表紙は、垣花隆夫先生のやんばるの辺土名湖の写真です。今は梅雨の時期で森には入りづらいますが、この雑誌が届くころには、写真の様に美しい緑に包まれていることでしょう。

今月のトピクスからは、勤務医の先生方の疲弊を解消するために各施設でいろいろ工夫されていることについて報告されています。新聞紙上でも、中北部地区の小児科医の減少と勤務医の先生方の負担の多さなどが取り上げられています。それぞれの病院にもいろいろな問題があるのですが、沖縄県全体を見回して考えていく必要があると感じさせられました。

マスコミとの懇談会には、新しく琉大第二内科の教授になられた益崎裕章教授による肥満とそれを取り巻く問題についてです。沖縄県の肥満の割合が高いことは、もうすでに医師会員ならずとも一般の人々にも承知のことと思います。その結果が、糖尿病の増加や自分の専門である循環器疾患の増加につながっています。益崎教授も言われているように食生活の見直しが大変重要であると思います。メタボ気味の自分も、夜の食事を減らして、朝いっぱい食べることを実践したことがあります。効果はてきめん

で、体重の減少はもとより、体調までよくなりました。長続きしなかったのが反省点ですが。

生涯教育コーナーは、南部医療センター・こども医療センターの伊良波史郎先生による強度変調放射線治療についてです。副作用を減らし標的臓器に対しての線量集中性を高める新たな放射線治療とのことで期待されます。

プライマリ・ケアのコーナーでは、琉大の近藤毅先生による認知症クリニカルパスについてです。認知症の患者さんの診療・介護は、家族はもとより医療者も負担を背負いますが、こういう取り組みがきっと役にたつことと思います。

インタビューコーナーは、新しく沖縄県病院事業局長になられた伊江朝次先生です。県立病院を取り巻く環境にも厳しいものがありますが、改革にむけてがんばってほしいと思います。

発言席のコーナーでは、那覇市立病院の知花なおみ先生より「女性医師」から見えるものと題して、また、沖縄県医師会女性医師部会長の依光たみ枝先生からは、女性医師バンクホームページのことが報告されています。医師の偏在とも合わさって女性医師の活用もこれから求められている問題です。

若手コーナーからは、クリニックひがし野の島袋敏秀先生より、また、随筆のコーナーでは、ましどり整形外科の真志取浩貴先生より楽しい文章が寄せられました。

この雑誌が届くころには梅雨も終わり、暑い夏が訪れているころでしょう。昨年と違いインフルエンザで忙しい思いをすることはなさそうですが、みなさん、体調にお気をつけてお過ごし下さい。

広報委員 旭 朝弘